



世の中には不思議で分かりづらいことがたくさんあります。自然、科学、歴史など、詳しい先生に解き明かしてもらいましょう。

甲府盆地の生活を支える 地下水が豊かな「扇状地」

甲府盆地にはたくさんの扇状地があります。例えば、甲府市には荒川扇状地・相川扇状地。南アルプス市には御勅使川扇状地。甲斐市と中央市には金無川扇状地。笛吹市には金川扇状地・浅川扇状地。京戸川扇状地。甲州市には笛吹川扇状地・重川扇状地・鬘瀬川扇状地。山梨市には笛吹川扇状地があり、多くの人が扇状地の上に住んでいます。今日はその扇状地とそこでの水の流れについてお話します。

川が造った地形

台風などで洪水が起こったとき、大量の土砂が川の水とともに流されていくのをニュースなどで見たことがあると思います。山の中は傾斜が急なため川の流れはとても速く、砂や石が下流に流されていきます。

川が山地から平地に出る所では、傾斜がゆるくなり

川の流れが遅くなります。川の流れは遅くなると砂や石を流す力も減ります。そうすると、そこまで運ばれてきた石や砂が川底に沈みます。それが谷の出口にまんべんなく積もってきた地形が扇状地です。

扇状地の山に近い所では大きな石や粗い砂が積もっていて水が染み込みやすい地質になっています。一方、細かい砂は軽いため、遠くまで運ばれて扇状地の低い所まで流され、積もって水が通りにくい地質ができます。

水の利用は注意

扇状地は、山に近い所は水が染みやすい地質のため、川の水や雨が地下へ染み込んで地下水になります。この地下水は地下を流れていって扇状地の低い所までくると、水を通しにくい地質が出現するため流れが遅くなります。地下水は後から流れてくる

(山梨大学院医学工学総合研究部・国際流域環境研究センター 中村高志)

御勅使川扇状地(南アルプス市提供)